館報はた

スージーちゃん　スイカワくん

令和6年9月1日現在

世帯数	6,415戸
人口	15,237人
男	7,375人
女	7,862人

25区 夏まつり

7月20日（土）に、北原西公園で恒例の夏まつりが行われました。昨年の反省や要望を活かし、町会長を中心に打ち合わせや準備をし、当日を迎えました。役員は15時に集合し、暑い中提灯の設置や会場の準備に大忙しでした。昨年は大勢の参加があり席が狭かったので、今年は席を増やし、イスとテーブル席も用意しました。そのため、参加された方々には、ゆっくりと座って楽しんでいただけました。

水風船、綿あめ、ポップコーンコーナーを用意し子どもたちには大人気！特に綿あめは自分で楽しそうに、上手に作っていました。

恒例のスイカ割り大会も子どもたちがなかなか割ることができず、会場中に盛り上がっている様子が伝わってきました。

今年の夏まつり一番のイベントは、豪華賞品をかけて町会長との勝ち抜きジャンケン大会！大人も子どももジャンケンを楽しみ、見事勝ち抜いた方は大喜びで商品をもらっていきました。暗くなってきたら、子どもたちは手持ち花火を楽しみ、夏まつりはお開きとなりました。

事前に参加者を募り、おかずのみのお弁当やキッズお弁当など3種類を用意。飲み物や波田の美味しいスイカも用意して、皆さんに満足してもらえたと思います。

25区は新しく住民になられた世帯も増えてきたので、こうした地区行事は、住民同士交流する良い機会になったと感じています。浴衣姿の子どもも多く、夏まつりを楽しみにしていた姿を見る事も出来て良かったです。

役員は準備など大変ではありますが、さいさい祭が開催されなくなってしまったので、これからも25区は夏の地区行事として続けてほしいと思います。

8区 「熟年男衆の集い」発足

8区デイホーム「すえひろ会」は、ボランティアの多くが後期高齢者となり会の存続が危ぶまれていました。

このような状況の中、町会で募集したところ10名の方に参加いただき、継続されています。

「すえひろ会」は2月と8月は活動していないので、この2ヶ月を男衆の集まりにしようと参加者から提案され、「すえひろ会」との兼ね合いで活動することにしました。

超高齢化社会、お互いに年を重ねる毎に体力・気力などの機能低下が心配されますので、男性同士の話し合う機会を設けて交流を深め、健康な人生を目指していくことを目的としています。

初回の2月は西部地域包括支援センターの塩原氏を講師として迎え、「認知症とは何か」と題して講話いただき、理解を深めました。今後5人に1人は認知症になると伺い、男衆の集いが地域のつながりになるよう期待します。

講話後の懇談会では、飲み物は各自で持参し、会費の範囲内で用意されたおつまみを食べながら親睦を図りました。

第2回のテーマは、「高齢者をめぐる最近の話題から」と題し、民生児童委員さんから

①人との関わり
②生活の工夫
③皆と話し合う機会

など、多岐に渡り現状をお聞きしました。

そして、町会長から「高齢者の生きがい活動」等について話があり、集いが大きな輪になればと願っていました。

8月の集いは暑気払いも兼ねており、交流もさらに深められ意気込みを感じました。

7月27日（土）、波田中央運動広場にて、子ども会育成会主催の子ども夏祭り（花火大会）が開催されました。

昨年度から令和2年度より中止となっている水輪花火大会に代わり、子どもたちに少しでも花火をする機会を作れたらとの思いで、広い場所で花火を楽しもうと始めたお祭りです。

育成会のお祭り部会が主体となり、協力団体のスタッフにもご協力をいただきました。

さらに、中学生のボランティアスタッフを募り、36名にお手伝いいただきました。

事前に申し込みいただいた人数で280名ほどになっており、昨年度の2倍以上の人数でした。そのため、花火も多く準備しましたが、あっという間に終了してしまいました。

また、屋台には長蛇の列ができ、特にポップコーン、綿あめには提供するまでにかなりのお時間をいただくこととなりました。しかし、中学生のスタッフが頑張って作っていることもあり、皆様から「頑張って」等の温かい励ましの声をいただき、終了予定時間を過ぎてしまいましたが、皆で協力し、並んでいる方全員に提供することができました。

中学生のスタッフにとっても、とても良い経験となったようです。そして非常に頼もしく、素晴らしい子どもたちでした。

来場者からは、良い企画で来年以降も是非続けてほしいとの声が多くありました。

大勢の方にお集まりいただき、大盛況の子ども夏祭りとなりました。

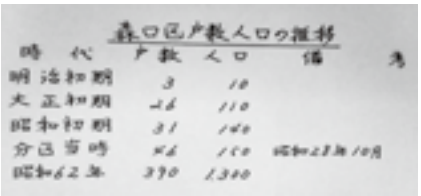
22区　区の歴史について

22区は森口という地区にありますが、皆さん地名の由来はご存じでしょうか。

正解はその名の通り「森の入口」から来ています。

明治時代の中頃までは、松本藩の御林が三神社あたりから渕東までの約3㎞にわたる、広大な松林が広がっていたようです。その森の入口であったことから、森口と呼ばれるようになったと言われています。今は数少なくなりましたが、所々に松の木が残っております。最も多く残存するのが波田小学校の赤松林です。

左記の表は22区公民館に保管されていた昭和62年制作「森口区のあゆみ」の抜粋です。明治の頃はあまり人が住んでいなかったようです。



森口区戸数人口の推移

時代	戸数	人口	備考
明治初期	3	10	
大正初期	24	110	
昭和初期	31	140	
分区当時	44	150	昭和23年10月
昭和62年	370	1340	

大正12年に筑摩鉄道（現上高地線）森口駅が開業。車が珍しい時代でしたので住民にとっては大変喜ばしい事であったと予想されます。

昭和31年4月に2区から分区して22区が誕生しました。

高度成長期ということもあり、人口増加の一途をたどります。国道沿いで駅も近くにあるという好立地が田や畑を宅地へと変えていきました。

人口増加に伴い公民館は手狭となり、老朽化も著しかったため、昭和43年に現在の場所へ。増床や改築をしながら地域コミュニティ・自主防災組織の拠点として現在まで大切に使われています。

令和6年8月時点、22区は波田地区で最も人口が多い区です。緩やかでも発展し続ける、活力ある地区であってほしいと思うこの頃です。

今どきのすいか農家

酷暑だった今年の夏、皆さんは波田のすいかを召し上がりましたか？私はすいか農家になって20年ですが、その頃に比べ夏の暑さも年々厳しくなり、農家の服装もだいぶ変化したと感じます。

すいかの出荷で共選所に行くと、ベテランに混ざり、若い生産者が目立ちます。彼らは強力な日差しから目を守るためのサングラスを格好よくきめています。吸汗速乾、冷感素材の服は当たり前で、空調ファン付きのベストやジャンパー、そしてアウトドアや登山ウェアのブランドを着こなしている人もいます。

暑い中頑張り、汗まみれになりながらも、ちょっとオシャレな今どきの生産者が共選所を活気づけていました。